常陸紀行

乾

ル 4
333
1

劇場一覧顯微鏡下帙下之巻終

作者 滑稽堂

劇場一覧顯微鏡

中村富十郎
坂東彦三郎

黒崎先生著

常陸紀行

東都書林　金幸堂板

儿品4
333
巻 1

常五

題言

此冊子ハ大抵窪記ニ本ヅキ余ガ思ヒ出デタル事ヲ記シ
モトヨリ見聞ノ狭キヲ以テ遺漏多カルベシ
ラ無ク駄文ニ堅空ノ説附会ノ云ヒナン多カルベシ
況ヤ地名村名ハ古ヘトモトヨリ邦俗風土ノ自然ニ
ナレルニテ詳ニスルニ堪ヘザルニ非ズ余ガ
郷里ニ皇英樹ト云フ地アルニ槐樹ト書クヲ以テ
ヒガリシヲ知ルベシ皇英樹ハ刺ありて
さまたげしく人面ニ記シ来ルニ新

屋一されば異國すて他邦の言を譯せるを直翻義
翻飜翻なるべくの言あるべしとや我ら
皇國ハ異邦の文字を好るとりてうちひきて他
邦の面へ文字なる一ツなれ共ハ久米の姓ら古
ハ大米目と云ふ武人の目をもてものを祝るとい
もるとなる猛勇の貌を同じて米目といひし
て後久目といひて久米と云ふなり古今言語の
變化せるものなり且此著ハ霧務の灯下濡筆まもる
をもて時紀の失ハさるをもとして他訳并課誤最多

なるべきなれ屋一

文政九年丙戌春四月

洗心山人自序

[illegible]述るごとく拙子一時の筆記なれども時代の
[illegible]脱漏もまぬかれがたしまた世に
記載の洩れて主傳の口碑ふ存し諸家の系譜ふ
存せざるものあり文政辛巳金沢の戦争あり
大屋氏の系譜ふ元文氏の家ふ作者家の系の
紋あるもあり[illegible]一枚華[illegible]今彼此の
差を存ずる識者の鑒裁を待

常陸紀行　乾

洗心山人黒崎貞孝至純撰

常陸國上古八海水逆流して遷移常なりしふ
後来漸く潮退き人民多く陸地に居て安んず
少彦名常陸國を云
一説に日本武尊東夷を巡狩したまふ國を毘那
良珠命新に井を堀りたまふ泉きよくして清冷なり
せハ是を歌美し所袖を漬しつゝ衣を漬國と
ひしと上略しこれを云筑波山黒ずみ接衣

陸奥國ナトゝ云り

又常陸ヲ永久ニ毛人の長陸と云ふ所の名なりて是國

經歷日久しくいまだ陸奥の名を見るとなしいう

又江海陸地一續なりとも又手立威陸とも云ふ然ハ

ひとつの戎ハ邪と云ふ以上皆常陸の國名國て

来ものなるゆへより然る常陸を言地高遠なる先

ヲ見れ見る日高見國と云説阿り抑二日本武尊

上総ヨリ轉りテ陸奥國ニ入ルト云ふ蝦夷ノ賊首岩津神

國津神業竹ノ水門ニ屯スト云ふ

取郡ニ多賀城ト社あり

又蝦夷既ニ平ラキ日高見國ヨリ還りテ西南ノ方陸常陸ヲ

ト云ふ陸奥國桃生郡ニ今日高見の神社あり

遠ク地を經て一處の稱ある所ハ

又東西の國を為日經又朝日之直刺國又青香具山者

日經の大御門ナト古ふ人なりと言葉也あ此ハ日高

見國と稱せるなり必ずて常陸國而已なるに今の

為陸ヲ小東の國を經稱せ所ハ是ハ奥州と陸

奥しいるを常陸の奥しい所意ヤ多珂郡ハ

来國の地方ニ道口しいる郷あり陸奥ハ入口と云意

なる所なり元正天皇養老年中の比常陸多珂郡を
割き石城菜多郡として石背と屬せしめ石背を
今の岩瀬郡なりと白河郡の北に在り安積郡に
接連く會津に隣り蓋し石背と石城の西北に
石城と表裏なり石背と背陰と共に意あり故に
山陽曰影面山陰曰背面即今の山陰道山陽道なり
此等なり因て意あり
石城は磐城より妃三尾氏は磐城別之妹と云又磐衡別
命あり又石城別王なと見あり別の字ある

もとより七十餘子皆封國郡各其國故當今時謂法國別
者即其別王之苗裔と以上舊記に見て磐城の古名跡
なりと知る所なり
常陸國境界の較定は醍醐天皇延長年中の
頃なり　新治　真壁　筑波　河内　信太　茨城
行方　廣島　那珂　久慈　多珂　以上十一郡を合
て称せり　後和天皇天長年中の頃は総常陸上野の
三箇國而已國守と称して大守と称せり是親王方として
補任なり東北諸國の鎮守なり即ち東

國を通ずるなり茨城郡は常陸の中央にして古へより
國府なる郡なり地なり今の水府城は茨城郡常石
郷にして天府の地なり常石郷昔時は那珂郡に
して那珂郡又仲郡なりも亦即常陸國中央
にして國府なる所なり地形自然なるものなり其
土地の産物産の育腴にして山東の利を擅にする郡
なるを宜なる業
仙波湖は城の西南の郭を遶り其源池塁邊より出て筑川等の地を屈曲原野を

過ぎ東流して川脇村にて那珂河に合し海に
入る是の湖中新に堤を築きて揚柳楓樹を
両行に植しむ所謂る西湖の堤なり堤上湖
中蓮を生せり開元の節景色美観なり余嘗て
舟入芙蓉花裡去人従楊柳樹陰来ルトロ號せり
茨城の称呼は上古土蜘蛛なるものありて常に穴居し狼
性梟情群徒を相率て良民を刼し殺害を恣
其出没をまちうけて茨棘を以て穴口を塞き騎兵を
以て殺戮したるなり是茨城の郡名の因て来れる所

なり上古土蜘蛛など呼なせしを今の世盜人と
ど称ずゝナト呼と同し若時丹波山千丈ヶ岳と極て
又ハ鈴鹿山の鬼神なりしを其比世に恐しく云なせ
言葉なり後世くなりて鬼神なりしを覺めるこの
世に多し
那珂郡八仲郡と也云常陸の西に鬼ぬ川あり東ふ
久慈川あり中間に那珂川あり即常陸の中都と
東南に流れ水府御城の東北の郡と経歴し東
海に入是那珂郡の称呼因し来る所なり

此河其源下野國那須郡の渚山より出て那須郡
黒羽城の西より烏山城東を経歴し那珂郡野田
村より東流し御城を過て東海に入る陸奥より
なり下野那須に常陸の北郡より諸産物を
運漕する水路なりて常陸國中の一大河なり
朝妻郷昔より古く呼来れり蓋し日本武尊
播磨と顧る所し吾嬬の言に因て称し来れるや
志賀屋のごとく
土俗山茶と云て杖とし堅硬不折とく人多此木を

洗心亭

馬德

杖にて上古日本武尊土蜘蛛を征したまふ時海石榴
樹を採りて椎とし猛卒を簡みこれを椎にして悉
其黨を誅戮したまふ西海石榴樹杖はこれ始しき
なり
絶和訓アシキヌ又うきぬとも云精細なるものを絹
と称し粗糙なるものを絶と云なり上古相摸常陸
上野武蔵下野五ヶ國より官府に布を調進せり元明
天皇和銅年中より絶を始て調進しまたして布と
絶と調進せり今上毛下毛より及其比隣絹布を織出

す景莫大なりて其産物既に天下に冠たり上毛より
の産業なりて其来歴あるを知る所し
又光仁天皇寶龜年中常陸より絶を調進し又
聖武天皇天平年中常陸より曝布を貢せり風土
記に那珂郡小曝井ありて村落の婦女集會しく
布を曝せりこれ今八行れの地なるを伴ふ
せしなり今水府城下に産する其近郷綿布
を織るに精細なりて其上品なるものハ絹帛ふ
土佐目にて前白と呼又綿布を黒深なりて黒桟留と

称し其精妙奇品なり下野真岡より曝布を出ぞ
せり最名産なり近時水府より也出せり又上品
なり蓋し下毛真岡は上古より西那珂郡に属せしや
曝井也是昔の地に有しるや知る所なり近世
水府より絹布を織出せり日を追て精妙なり野
州武毛郡の南冨山邑より絹を織出せり上品なり又
那珂郡下檜澤邑より絹太織類を織出せり皆其
産物土地の自然なして古より来る所なり
漆は上古より常陸産物なりしく最も上品なり今に

那珂郡小瀬國長野口諸村なども往々出ぞ其他久慈郡
多珂郡及諸郡漆木多し然れども之を採る
に熟せずして只木を植る而已なり越前國の人
世漆を採り其利多大なり今諸國に渡りて業と
年毎に常陸より来りて業とする者あり此樹
諸木と殊なりて一たび植れば伐る能はず信に
一家の有益の物なり能地あらば必ず之を植て
永世子孫の後栄を期す可し
常陸國より紙と漆出せるは上古より事なり今世

紙の種類数多あり西野田と称せらるる所
多く久慈郡大澤村原と最とも多くして此産
下小川西金相川の諸村も更なり那珂郡名子小田
野高部上檜澤下檜澤小野澤上小瀬下小瀬那珂
門井野口大岩小舟小瀬沢吉充本郷中井千田秋田
松野草國長野田長倉金井大畠其他野州武
毛郡大内大那地谷川多部田矢又岡組松野富山等の
諸村此産皆紙を漉て業とせり常陸北郡の産物
最第一とす島子村薄井氏富豪にして紙を弼ぐ事

を業とし郷中小石あり其他此数村中紙を弼ぐ
ものと常とせる所最多く又久慈郡大田郷中
和久松平天下野高倉小生瀬大門國安蘆間東連
寺等の数村此産紙を漉くことを業とせり其の産物
皆是其土の自然にして来歴あるものなり此産郷中
今最も重要にして最も先勢なり那珂郡に油部あり
那珂郡に昔阿波の郷と云ふ今の栗野是なり
阿波山上神社今大山村にあり此の社地より勾玉を出
せり此に此産せる地より也雨滝など拾ひ得るもの往々

ありと云佐竹義敦の四男義孝大山と氏とせり蓋
此等ハ合邑せるなり新屋ハ栗野と大山とを比並
せる地なりしなり
又磐船ハ神社あり今穴澤赤澤ハ隣り西北ハ
山奥ハ在り磐の臭船ハ敷せるありと云
栗野村ハ住谷玄信と云醫生あり其業ハ要く
殊ハ産術ハ長せり
坪村又阿久津と云峨眉山人なるものあり守愚堂
師せり書を能し國学ハ名あり今ハ世を去りぬ

情也屋し地誌の考をあらをなり再考を屋し
飯富村ハ青山神社あり又大井神社をあり又
り果して然りや否
那珂郡那珂村あり神道集ハ延文三年安居院
園碩の撰なり太神
宮ハ郡賀郡古内山ハ天下りさて國中を見廻り
廣島郡の古墳を御在所ハ定むとあり古内山ハ古内
村なる屋し又三代實録ハ廣島造營の材木を探る
山を那珂郡ハ在とぞ又和名抄ハ那珂郡ハ廣島郷
あり廣島郷阿弗の地ハ定なり

掬の下擔澤村の鹿角宮あり又上小淵下小淵吉
村の鹿角宮あり又長倉村の鹿角御巷あり以上
皆那珂村に隣りて相比並せる地なり鹿角郷
とゝ世号といふなる屋一
又高久村ふ鹿角宮あり後堀川院の御宇征夷大
將軍孫原頼経郷一悪来を征伐のゝち関東下向
の時此社ふ祈願せゝ神霊驗ゝ蒙りしゝで今社頭
悪来義古像あり又社前の夜叉神二躰ゝり最
古像ゝして今八掬果僧の奥を存せる而已なり傍

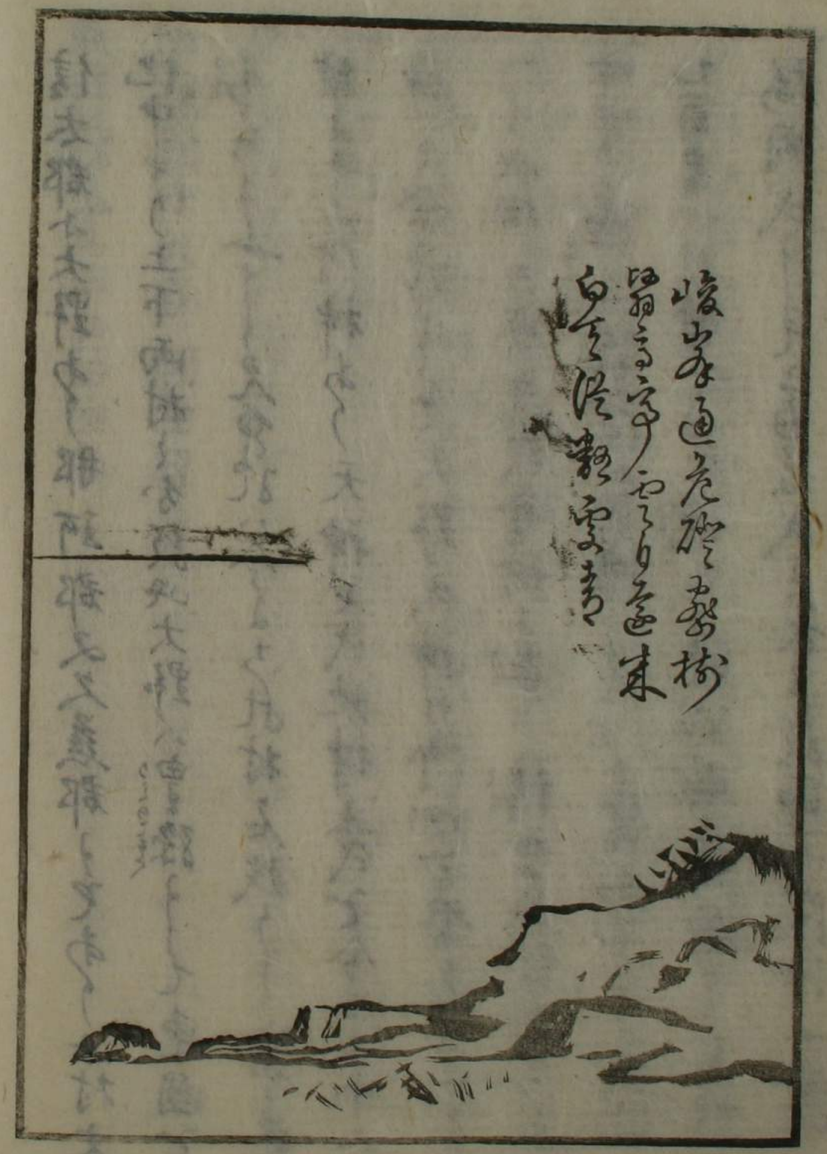
小一小社あり陽石を祭祀せる也又とゝ悪来を西海を
なり土人是をあゞゝまゝ云伝ゝまゝ云屋一
天正の比佐竹行義の六男の馬淵小三郎景義なる
もの高久氏ゝつ蓋此地の食邑せしゝ
野口村の佐伯社あり佐伯八播磨讃岐伊豫安芸伊予
五ゝ國の社なり是大伴健吉東夷を平げ給ふゝ夷屋を
石五ゝ國の屋敷ゝむ即此ゝ佐伯部ゝつ サイキトハ毛人ホ言花
喧嘩ゝて其拳サワカシキトハ言なり 那珂郡の阿
波の郷あり又阿波山上の神社あり因て掬の佐伯部

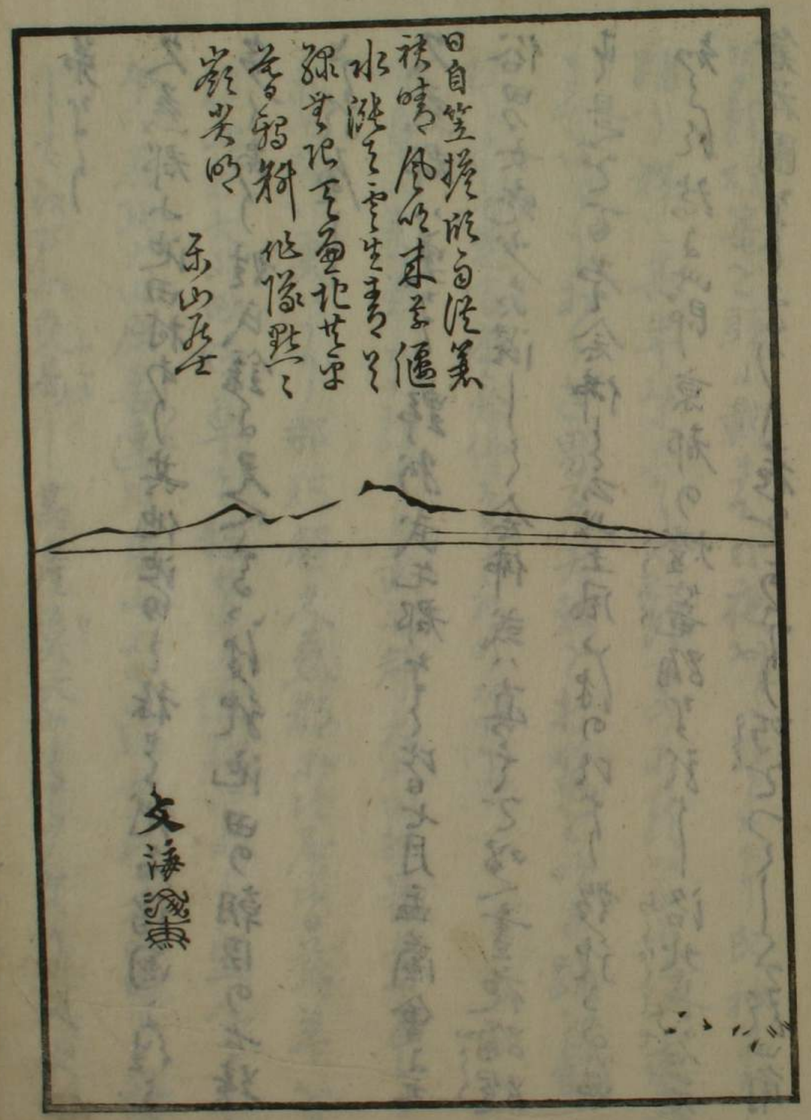
八阿波国なりしとも其先東夷の族より出ぬ此其
枝葉存在し此の郷中に繁るまゝ又土人の説に此村
昔密寺ありて御朱印八十餘石とて僧空海開基
にて空海も佐伯部の支流なり故に此土に繁る
とも云又泉福寺とて曹洞宗あり余此寺に遊ひて
富家関澤氏と訪ふに主人書画を好て近時諸名硯の
書画若干を珍蔵せり又御前山とて古松の繁茂る
山あり是の山松薬を産して香味最美なり又
大澤氏あり昔時佐竹氏に仕るより今は相州大磯

小同族を存せりとも
小田野是村より八幡宮あり社前に松の大樹あり土俗
相傳ふ三浦大介紀州より移し植て大さ数十圍に
して中間擎の宿り木あり亘り尺餘神宮と高
信氏と云又孫福寺とて密院あり三浦氏の墳
墓あり三浦家没落し此村中に僧りとて其支
流も今に存在せり云三浦氏の遺像及太刀を
もつて村長川向氏書を著しる友人なりしも
身の薄倖を厭て遁世し今所在を知らず今

学ぶ能を他に及ひて世に懐旨の情を達し侍
郡坂郡に八郷郷あり又河内郡久慈郡まで是
皆何地を総て太郡と訓て即矢田部なるべし按ふ
景行天皇五十六年秋八月沼沼別を日波父彦
狭島を示潜向任所而早薨故汝専領東国是以
御諸別を承天皇命旦欲威父業則治之早得善政
云々由是其子孫於今有東国云々姓氏録池田朝臣
佐味朝臣大野朝臣韓矢田部造皆是也今村名
或姓諸国に小矢田部あるも是の枝葉なる歟

信太郡に大野あり郡坂郡又久慈郡まであり此村文
化中より上下両村と分れ此大野に皇孫まして東国を
治めたまふ是西地に今なほ其村名残りしもや是
村に十二所神あり天神七代地神五代と合せて十二
神と祭れるとて大野氏神の御祖を祭るべしなる
べし此郷の齋孫氏醫術に委しく博学能記匠世の名
士なり偏く諸国を巡歴して余が舊知なり文政
乙酉夏六月醫を以て權て能郡廳に附属せり本姓
橘岡氏にして高倉氏に家に即大窪行天氏の




文海

弟なり
久慈郡ハ池田村あり其他池田と称する地名諸国に往く
多くあり姓氏録に見えるいはゆる池田の朝臣の古蹟
なるべし
久慈郡ハ更なり野州武毛郡なども皆七月盂蘭盆に土
俗男女老少お混じて念佛或ハ真夜踊躍
を是を百堂念佛と云此土風ハ他の比なり野州ハ
知られ殆ど此即京都の燈籠踊なるべし洛北長谷岩
倉花園なども花をこのより巧をつくして新四角

なる灯籠を頭に戴きて日夜なり民神
踊り始て其年みのりあるべしとあり家ハ行て夜更
までなりしあり男子ハ大鼓をお笛を吹き踊を勧
むるを是百堂念佛なるものなり
煙草ハ蔦草なるべし武毛郡大山田村景品高
武毛郡ハ更なり那珂郡久慈郡お比屋皆蔦草を
植此を大山田煙草と称せり近時いよいよ盛んなる
今ハ慈恩大田原喜連川烏山お諸藩皆大山田と称
して江戸ハ交易し甚産莫大なるものなり又大田

郷ハ赤土利負ホの名産あり此葛草近世蕃産ル
ものなれども今海内ハ[illegible]賞翫せり今北狄の諸
夷も愛せざるべ環海異聞ホすも見西此葛草あ
夷よ之[illegible]ものつして高弥せざるなり廣く古
今の事蹟を推して其時世の風を知る屋
久慈郡大田郷あり是の大田の称呼今諸國往〻最
多し按ホ景行天皇冬十月到碩田國其地形廣大
且沃因名碩田也豊前國京都より今村名或坪名なり大の字
又ハ多の字あるも其土平遠或ハ廣大なる地を云今ハ

自然〻いひなれ〻土地の廣狭ものたるを
廣の地ハ皆大の字を用ひ来れり大の字多の字の村
名枚挙ゆ遑あらず
景行天皇五十七年冬十月令諸國興田部屯倉ヲト云
田戸の部曲ゆ倉を造り〻め私穀を貯て凶年飢歳の
備とせ[illegible]なり今村名地名ゆ倉の字を多く用ひ来る
り蓋し昔時屯倉の設あり〻地ゆ河内郡ゆ完倉
あり邪珂郡ホ長倉あり木野倉あり久慈郡ホ高
倉蘆野倉ホの称呼あり其地一く枚挙ゆいとまあらず

給して地名郷名姓名等上業遺跡等を彫るなり
元禄八倉庫を賜て積年不拔凶年飢歳の備最至要
なるものなり今邦内諸所倉庫を設あり
近世いよいよ御収穀あり今高積数十万石及び
老農天幸なりこの歳昇平の御世なる生涯暖衣
飽食而已なるべくまた仁政と見少せ彫刻あり
さすがなるべし
長倉村を巡きたり稗倉御設あり是上古屯倉の
意なるべかなる豆村名倉の字あり屯倉の意歟

自然と暗合せるか此村を養泉寺と云曹洞宗あり
明僧心越の題せる詩あり其作清新なるいと異
朝の人題名せるもまた又殊なり村長泉伊高見性居士
歸しぬ常ふ參禅しぬ忽ちなく齢九十六歳に
て甲申の秋下世せり存命中
上より屢賞と蒙る長子伊高廣中と云又時勢とおく
勤御中る名あり見性翁八余の叔父にして長子伊高を
余の益友なりしぬ今八既に世を去り双泉氏其先佐竹
氏の忠臣なりて其祖某なる者の殉死せり佐竹度

より龜の紋を賜りて今に家の紋となり見性居士
始貧しくして家産蕩盡し持来る所の具足刀劍も
て活却せり存命中嘗て此事を余に告て每に歎息
せり因族あり醫を業とし因幡に住めり相州大
舘まで因族ありて泉隼人家茂と云近き比伊勢の
嫡婚利清因幡より下りて家茂に對面せり家茂の
住める街を今小長倉街と稱せるとて泉利清能
歌よる名あり美曲と歸せ
國長村に月桂亭玄秀醫を業とし景八眼科に長せり

久慈郡上古八久自とも之り郡の南に丘ありて其形鯨
鯨の如しり日本武尊の名ぱけまふ所なりしり此郡常
陸の奥郡と稱せり東鑑に佐竹氏の領せる所とあり
久慈郡の郷名に岡田と云る地名ありて今其所在を
知らず又那珂郡にも岡田の名あり按に今開田の村名
あり開田を古昔八岡田と云ふ也と文字の誤れるに
轉訛して今八開田となり蓋し岡田を開田に
や大字の誤るを以て誤りしやあらん開田若時八大郷な
りしに今八上金沢村と名るなり又開田村に接して

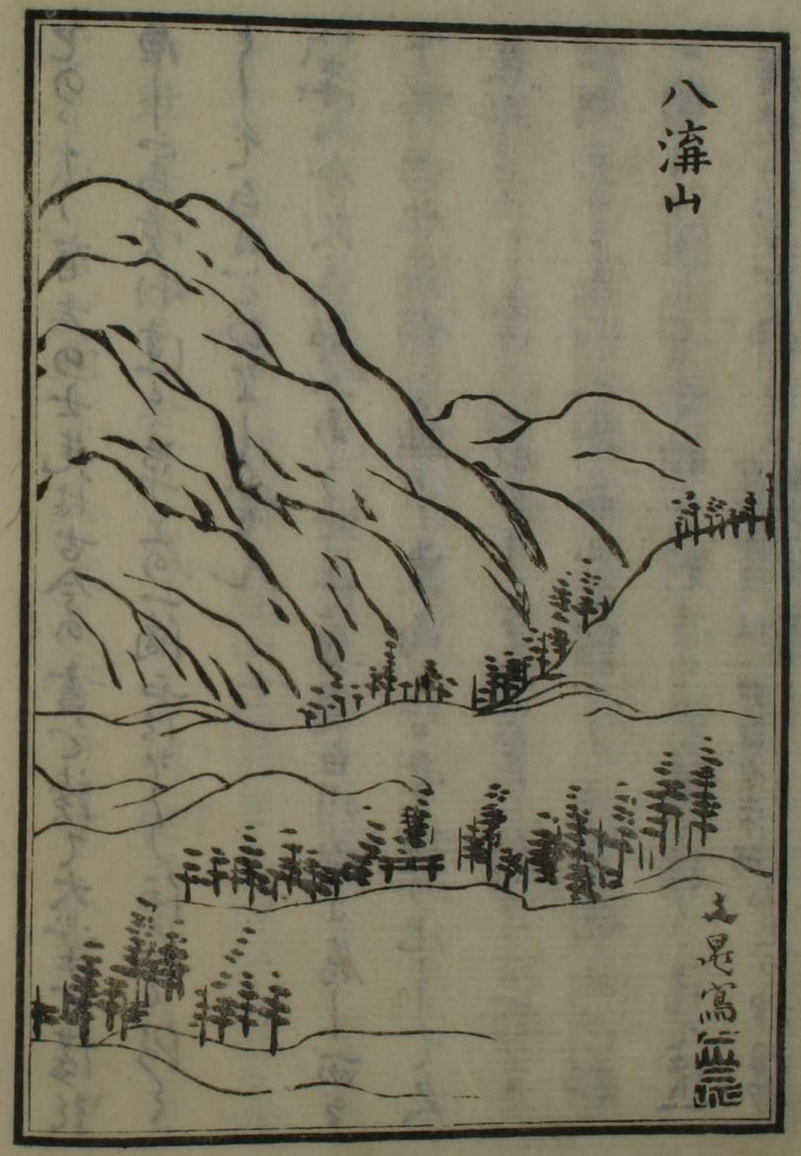
佐貫村在り此村ハ立岩と云地名あり此立岩ハ開田村ノ属
ニて左貫村の界なり一丈の石なり此立数丈故ハ石ハ
なるべし是の立岩の地を昔時ハ開田村ハ属せるなるべし
此開田村ハ邑長吉成氏あり吉成氏ハ結城氏なりと云偏
と除きて吉成氏と名乗なり云武名の家なり一説ハ
糸井氏なりと也又十二天の社あり是も上世乃
神祖を祭祀せる屋にて此の神乃御在ますを古館と
呼り昔時柵と称し又砦と称し或ハ要害とも云ひ
て其郷中要害の地を見て国司の族豪其處に住

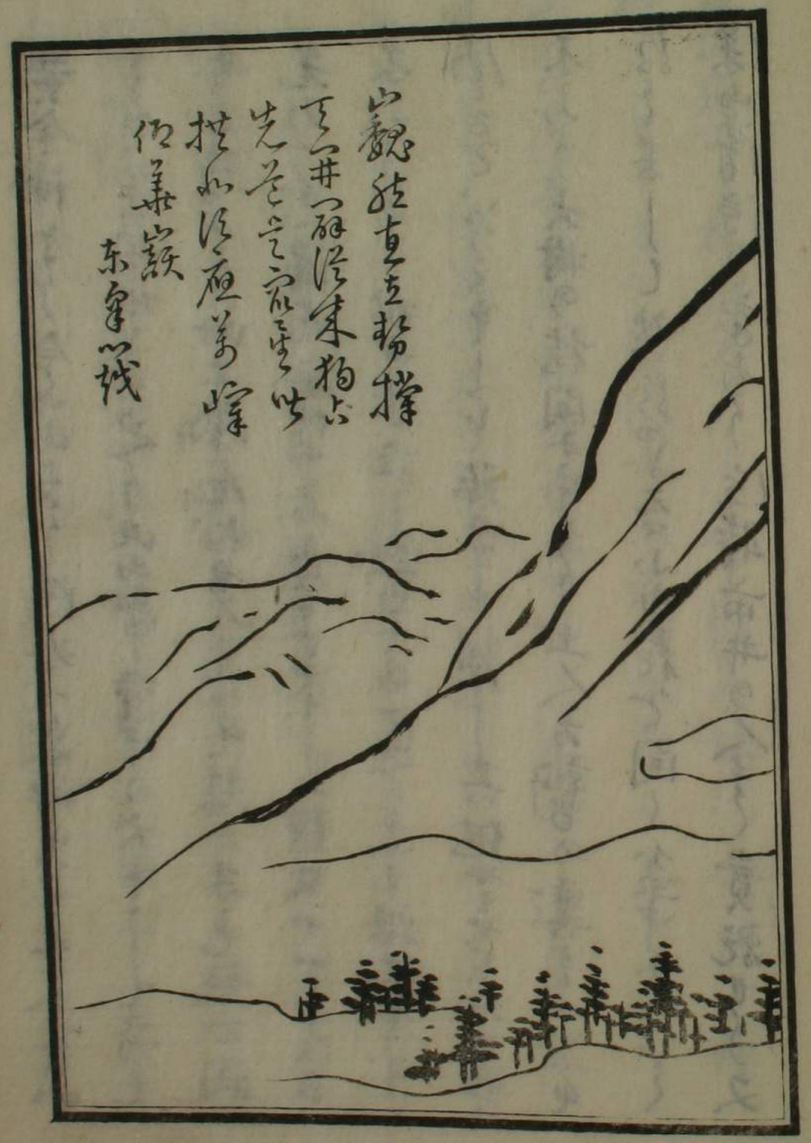
居し他国より不虞の入寇防禦の備とし且ハ武者或ハ
剛盗等の浪藉を鎮護せしと云是の地を館と称せり
今館と称せる地あり今此の古館なる神社ハ年
毎ハ流鏑の祭りあり乗馬あり屋にて上古
遥遠にして紀載なし其詳なるを考へ屋うべし
余ハ郷里大なる村なり十二所の神社あり何れも古名跡
なる屋にて文治年中源頼朝廉名の社を敬し
り他社ハ異なりて毎月の神膳料として数百十石を
東国奥郡より細しむる事見へたり因て按ハ大なる村ハ

唐禽宮三箇處あり蓋し常陸の奥郡なれば是乃
地を又社料に属せしもの歟此の三社をつの注り
破壊し今は名而已を存せり唐禽の馬場廉禽の素
廉島平にあり余少時すて八唐島の馬場に杉樹を
茂りて又小池あり天女の小祠ありて朝夕の往来も未
下閑なりしも今は杉樹も枯果て世の河
原さまこのくまて須臾の間に移せり況や数千歳
と経事とや人世かく浅まし浮世の朝にまして夕
をと知るべしあるとも只是文章の一事不朽なる

をのみ有志の士先ば古今の書を讀て大業を謀
廣し富貴利達も草上の一滴露なり何んを汲く
とも白日をもなしふせん

八溝山今の久慈郡に北は陸奥國白川郡を属し西を
下野國那須郡と接し東南は皆常陸の地まして久
慈郡なり山中洞穴多し古黄金を掘りしとかや
仁明天皇嘉和三年春乙丑詔して陸奥國白河郡
の國司八溝山黄金神を祈りて沙金を採り貢て遣
唐使の資を助くと　當時遣唐使大使藤原常嗣　副使小野篁也　山上の祝祠即


八滝山



黄金神より今ふ山上より清冷の泉湧出せるを金生水
とも黄金水とも云り此山常陸中の大山にして景色
古名蹟多り此土風尾花多くして殊ふ赤色純白潤
光ありて海内之比の名産なるよし一種又サヤハメト云
木あり水中ふ在て燃ものを来て炬火とし
風雪ともとして孫香也ヤシヤビシヤクト呼
木より大樹の枝間ふ生せり土人云鷲の糞より生せ
ばなり果して然るや否小白花を開く盆中ふ植て
深山清涼の家あり近時市井の人まく賞翫せり又

石楠花あり楊梅最多し書ふ諸名林間ふ特殊ふ楊
梅多きなり多く其他高草弥花松峯ふ屋うしたり
山水の清奇出塵離俗神仙の境と云屋山上又大
悲閣あり坂東順礼の一なり日輪寺月輪寺と云両院
あり修験住せり此祖八楠家の因族にして和田氏な
りしとて楠正成の書あり其真贋八余ふ於く知ら
ぬ神代古墨蹟ふして紙なく近世のものなるべし
いつの頃より光薩院孫薩院と云て別當となりし
とて今山上ふ二院あり山下ふ一院あり合せて三別

當〻云上郷村勝荘院八溝山ゝ分れて隠居地なりしゝ今古文書ハ此院に有り御朱印等ハ殆
ハ此り出山ハ溝山〻名はらる四〻ら八方ハ溪水流出し
て西ハ那珂河ハ入り東〻久慈河ハ入る就中久慈河
水源〻ハ溝の山北山南数ヶ所より出る故ハ八溝山〻云
又ハ此ハ山下上野宮上郷中郷町分ハの四ヶ村〻ハ
ハ黒澤〻云〻なり近世まて黒澤〻呼り此ハ
溝山ハ妖鬼ありて常〻陰雲晦冥林麓〻雲霧
濛〻〻して黒暗なり四〻ハ黒沢〻呼〻なり
土人因て此黒沢より奥〻暗〻〻云〻しとかや

此妖鬼ハ近津神退治し給ふ今ハ近津宮ハ
神霊〻なりて爪牙なを存せり又一説ハ〻ハ蛇
蟄蔵して人民を殘害せり須藤権守某八溝山の
奥笹ヶ岳〻て平治せしゝ耶須記ハ今上野宮村
ハ洞穴ありて蛇穴〻呼称あり是毒蛇の蟄せる
所なりしもいまり此上諸説何れか是なるを
知〻ハ又ハの説〻のまゝ予り郷里ハ猟〻好ム
所男ありて笹ヶ岳より今高笹山ハ分へしハ杉木刈
間〻洞あり古剣一口を拾得り此男剣を得て怪〻思〻〻らく此

劔神の御しるしひく他日神の処(しるし)を恐ろしとて今
まで寶院と云修驗の家に收め此家秘蔵せり年毎に
此劔を見るより何神上世の物なれ屋一
久慈郡北郡と依(ヨリ)上保内の郷と云て昔時八世四ヶ村と
しら今は四十二ヶ村となれり塙(ハナワ)村に宮の上の神あり
今宮の上の古名此に存せる而已なり佐竹興義(たきよし)の二
男依上三郎宗義なるもの是なり蓋一此地昔時
依上氏の領邑せしゆゑ大子と大澤と同村な
りして今八面村となる又上澤と高岡と同村なりし

しと云て下八谷田中西夏賀と同村なるべし八谷四八
谷端とも又しら下野宮近津社保内郷の総
鎮守なりて世四ヶ村一年両度神輿出御一大祭
禮あり往古の意例なりて世四ヶ村に出御一者なり
今とゝ云てひらしと知る是也
久慈郡の古き郷名に佐野と云る是なり蓋一
今の佐貫村なり又真野あり是も今槙野地村
あり此の地なり佐貫槙野地と比来せる地なり
佐貫の村長町名氏あり意家なり又吉成氏

何り壁と業と〳〵其術小香〳〵名家なり
世村下野國那須郡の畧して八溝山の直下なり
那須記に佐貫某なる新とその見西是の地名と名
なる所なり
数の字を用ゐ新に続日本記又和名抄ホすを見
る同文通考に和俗製作の字とせるも誤なり續字
稾補す出ると少り上古の粗秩ハ稲と束て納しに
なり畝反の廣狭土地の肥瘠によりて其地〳〵の等差
あり稲何束納るなり當時定れる法制あり〳〵

見西今久慈郡部無村より山方邊まで土俗畠の廣狭
何反何畝歩なるを彼ら幾束此ら幾束なる〳〵
り束とワカヌルト云字義なるべし〳〵の間と束間といふ
土俗の方言上古の遺風なるを知る庵〳〵
成務天皇五年秋九月令諸國以國郡立造長縣邑置
稲置云〻國造縣主ハ神武天皇より始れり此の時ホ
記て大小國縣と分ち國造縣主と定て置〳〵と見
る今久慈郡ホ稲木村あり上古の稲置と置し地
なりや又尾張ホ田子之稲置乳近之稲置なる見の類ハ

國司の配下ふ稲置ありて稲の租稅を收斂せしなり
屋一因て稲置をいふ一説や稲木村を大四郎ふ此
五ヶ所地方平廣なる稲置と宜しきなる屋一 天正
年中佐竹秀義の六男義清の舍屋也一地なり
久慈河其源を五あり一六陸奥國白河郡棚倉城の西
南八溝山陰より出一六陸奥菜多郡より出一六八溝山下
より出一六西金砂山より出て中野村よりて久慈河
ニ入るを云又八上河合村より合を云一六多珂郡里
川村より出南行數十里ふして高合村ふ至て久慈河ふ

合東流一海ふ入るを菜ふ詠ふ久慈川ニ歌あり
くし川ハ花ぞあるまさりたるかねふまちちぬき
ゑハひくりこん
近時地名笑ふ虞氏水ふ作るを奇を好ふ似り出河鮎を
産とり那珂河及諸所ふ出つるを久慈河を
以て最とす鮎物産家溪鰹とせり又紀月魚とも
云香魚或八金口魚なり數名あり雑ヒ年魚と云
屋一日本書紀ニも見て古名ハり
深山清冷の水ふやてべトり魚あり漢名未詳友人齊

山吹花ハ山吹清流の地ふ生し
て古ゝより井出の玉川を以て称
美ゝ歌園まる上覽碩童
水と長名ゝ水底ふ生しゝ
既ゝ賞玩せるゝ事ゝ今ゝ
う郷里久慈川此花三流ゝ
疑ふてあゝ事ゝ聊ゝ
拙作を錄ゝ

漁郎夜擁蘋花蓼曉短棹輕舟
水落家翁蘋葦一聲天路曙半篙

新濃揀棠花

洗心山人題

孫生云往時此魚を唐山の人見て華郎魚なりと
つひしとて此魚を味ひとなすして孫補魚なり
光仁天皇寶龜元年七月成寅常陸國那珂郡
より白鳥を獲て献せるあり又同しく四年九月
丁亥朔を献せるに近世此の白鳥稀ふ見る事あり
色白をふ少しく赤色を帶る其外常乃
鳥ふ似たれ共大きさ一人四五なるもあり
略鷹ふ類を捕かと思ふ捕ふ是鳥の別種なり
八溝山下黒澤郷町村ふ佐竹氏の屬業牧場河

なるもの食色七し地まて館もあるしとて萩なる
又大壽川なる昔時義家の場まて白川氏佐竹氏と屬
雄を爭ひしに碑ふ存せり慈雲寺と云寺
寺大院まして末派九十餘箇寺あり雲村の西なる
屏風一雙あり其他古人墨蹟多し近津の宮
あり山野七と唱ふ又箕形の社祠宮ふ某地氏の
屋敷ふ在り景色古しして也あるまと云近は宮の
段ちよ村長を飯村氏と云ふその先下野國芳賀郡
飯村ふ食色し字津宮氏の族業まして武功の名

あり其末裔名孫字士徳好学善詩予う莫逆の友なり
鶴三餘堂又鶴岳樵
魵東海及那珂河久慈河皆多く其那珂河より出るもの
最美なり毎歳秋時那珂溪より此魚を網し
上奉献此の魚魵と云又鰍と云何れも誤なり
なり魵の字小常れりとして本朝食鑑小見論せり
久慈郡小古志萬と云郷名あり今の高村なる歟也し今
も川島小高等の数村あり
又久米と云地あり乃今の久米村にして天正年中佐竹

義治の三男三郎義武久米村小食邑し久米氏と云号
久米古事紀倭建命平國廻行之時久米直祖小七拳
脛為膳夫以従と云又書紀大伴武日連令従西方武号小
小七掬脛為膳夫と云日本武尊東國を征し給ひし時の
従臣なり彼の末裔東國に封せられしも其古名今小
残れるなり歟也
又河内郷あり今の上宮河内下宮河内村なる歟此村
金沙山日吉神社の摩崖なれど宮の字を添しなる歟也
郷名村名なれど此等の例まあ歟事なり

又山田あり今の山田村なり豆温泉ありて能腰痛
脚氣の諸症を治せり近時人漸く知れり
又芝矢あり今九頭谷村なり廣爲の社領な
れば東鑑に見えたり
又佐竹郷あり即天神林村なりて上古の神祖を祭れり
社あり佐竹氏此地に興り太田居城して遂に常陸
奥七郡を領し漸く盛大なり此の天神林に
太田を擒屬せる地なりて佐竹氏の創立せし佐竹寺有
り坂東順禮の勝地なりて一大名刹なり又木崎の郷

名を即今の木崎なりて大田城に擒し者時大田城の郡
なり
書紀に千熊長彦をして新羅を使せしむ千熊
千熊長彦は武義國の人なりて今の額田部掬本首等
の始祖なり此の額田部は神代上記に天津彦
根の命なりて茨城國造額田部の連等の遠祖な
りとぞ舊事記に輕島豐明天皇應神の世に天津彦根
命孫筑紫刀禰を遣はし茨城國造下云く即是なり今は額田
村を郡に郡に屬し額田は地方平遠旦又本國の大郷

ホして今其形勝を考ふに依然たる古名所すて國造
と云る地ホ類し屋ちしき事なり或人の云額田ハ額
聚抄ホ河内國河内郡ヨ沼和名見えり沼ある地なり
しかふ金云常陸國新田ヨモ大なる沼あり沼ある新
地也國〻称呼なれ屋し筑城の國造河内國ホ在新し
きいふ地なり按ホ今諸國大津と称せる地名多〻皆
舟船の會集せる地なり舟船の輻輳せる地ホかぎりふモ
河〻人馬の輻輳せる地也皆大津なり呼来れり
此國名河新也なり

下野國武毛郡八十八村なり那須郡ホ橋連せる地な
八溝山の西南ヨ當地り其土沃壤野形隨一の境なり
古より義爭なしまるし由那須記ヨ委今此ホ略す
武部又馬頭村ホあり此村ホ馬頭院と云寺あり寺
紫葉河り枝葉繁茂せり土人云此村他如ホ移し植
て培せしと云り是院ホ長住しふ碩學の僧あり
號二云幻子一編く諸ホ遊歴し京師の佳名刹輪住
せり後此院ホ住しふ幾年なく遷化せり余往
年云幻子の舊居ホ題して脱俗人間夢幻生心薫温

大法身清嘶風撥馬風馳走伴月山雲月送迎香爐
殘煙遥去點燃営新墨未乾情門庭不掃客蕭蕭
一脉閑泉滴冷聲又乾徳寺と云曹洞宗あり芝境
内風尾松多し風尾蓑と云ふ蓑を此所にて作る
里小和見村あり石窟あり相伝ふ子割道鏡の潛隱
地し空しくて出村水精沙を出せり潔白解脫すべし
蓑庵上の弥ぶり又小口村あり温泉あり痾癬
を治すと云
武部村小健武神社あり按小健武八建部なるべし

弥しき古石なり蓋し建部を日本建命ホ屬役とる部類
と云ふなり風土記書記云因欲錄功名即定武部又出雲
國風土記云出雲郡健部郷古曰宇夜里所以改建部經
向檜代宮御宇天皇勅不忘朕子倭建命之名因定建
部爾時神門臣古弥定賜健部即健部臣等自古至今
猶居此處故曰健部又類聚抄云伊勢國安濃郡建部
太介無倍美濃國石津郡建部備前國津高郡健
部云く又書記初日本武尊娶両道入姫皇女為妃生稲
依別王次足仲彦天皇次布忍入姫命次稚武王其兄

稲依別王是犬上君（近江國犬上郡）武部君凡二族之始祖也又次妃
穂積氏忍山宿禰之弟橘媛生稚武彦王又舊事紀曰稚
武彦王命尾津君揮田君武部君等祖ト云ハ上の說を按
ずるに日本武尊東夷を征し給ひ橘媛を東海ハ
のなぎさるひしらで今吾嬬の名を存せりこゝ彼此の
えをもてして何地東國の古名歟ハ聊を疑
ふ所なり
又天正十八年太田五郎左衛門下野國茂毛城ハ射せ給ふ
なり此大田四五郎左衛門太田道灌の後ハ太田城ハ

宗移させ給ふ此武毛城ハ何地の地なるや又大山田刑部
なる者の住し見大山田ハ再考を要す
邦須郡ハ須佐木須賀川両村あり此山奥ハ海山ハ
接續せる地にて幽絶の境なり雲巖寺と云際に
禪あり又東山と也て寺領若干あり名誉の
唐僧住職せる寺なり境内五檜三井十景勝なり
其最なる者の発電ハ水ハ石玲瓏巖なり仏
殿を獅子殿と云額ハ震翰なりとぞ又山門ハ神光
不昧と扁せり何人の筆せるや寺後ハ草庵あり

仲須禅師習静の地なりと云低流の祖と表義の
住て 唱(はやり)ものを庵を破ぶに友末立 しらふ句と
残せり又仲法信と云る極ぶ四五月の際(あい)佛法信と
鳴〻と云余往時由ありて 郡廳の命を奉
世寺ふ使して三三日沿滝ヶ我ら邦家法制厳格(げん)ふ
して云事と云へ 私ふ遊覧せ彩ものを悼(いた)られて其
膝心と詳よせと古文書ふ墨蹟を多〻と少堂
上金ほ八下野と常陸の界にて堺の神と云ふ初
あり村長塚田氏と三世の通家にて莫逆の友ら

嘗武ふ画を好て篤厚の人なり世村ふ願入寺と云ふ浮土
真宗あり第二祖如信上人の墳墓(ふん)あり其の土垣(ふん)墓上
銀杏の大樹あり枝葉繁茂し蒼翠山の如し一言の跡
なり又禅院あり月照山と云ふ長松寺と云て数
里の間ふ見る幽栖の勝境なり隣里女倉(めくら)山又古館ふ皆古
し要害の地にて戦争の地なりし〻少し土俗の碑
而已にて紀載なし再考して後篇ふ録せ度し
相川村あり此郷近時湘江先生服南郭氏の門ふ遊び
て有名の士なり安達文仲なる人もの也門ふ出猶子

野内助三郎月居齋と號し画を好て一奇人なりこの
翁余が曾祖父休也と親交ありし又鶴川氏あり開田村十
二天社内の舊記を見て
余江戸より漂泊して一日長者巷を過て山崎氏を訪ひ
主人古瑟琶の揭布を所望せり主人傳て曰ふ模して出せり土人傳て曰ふ那須与一の瑟琶と
いひ揭ふ那須記云那須太郎資隆初娶ふ山氏女
生男子十一人所謂太郎光隆云々与一宗隆等なり然
也ハ此瑟琶を彫刻せしと云ハ与一宗隆の父なり

如ものゝ源平盛衰記与一射扇の條ふ折節西風吹来
テ船ハ艫舳モ動キツヽ扇板ニモタマラ子ハクルリ〳〵ト廻り
何レノ所ヲ射ヘシ共覚ス与一運ノ極ト悲クテ眼ヲフサキ心ヲ
静メテ帰命頂礼八幡大菩薩云々那須大明神弓矢
ノ冥加有ルヘクハ扇ヲ坐席ニ空メテ給ヘト祈念タルトアリ
此役ハ元暦二年二月なりしなれハ即宗隆を父の仰き
給ふ氏神なるしハうく祈誓をこめて芳いちに心
き勤ゆとそなりさて与一ヲ名ヲ為ハ土人ハ
云つくしなる新屋しー

下野那須郡温泉神社所傳

那須家琵琶

下野ハ上古下毛野と云又下菟毛と云こゝに池ありしを原那須野原なり其土廣野にして平遠なれとも

右大將實朝

をの〳〵矢なみつくろふほのうへふあしの池こそ

しなの那須の篠原

藤原實方

つくとゝふえやハうふきたてさゝをもち

しなとゝ面なれとひと

契仲勝地吐懷編及秀榮今按名蹟考皆下野國と

せり今の世ふ江あの伊吹山とも称ハとも誤り
なりとて
那珂郡鳥子村ゑ乎る山あり山半武毛郡ふ掛たり
鳥子神社あり此山峻高ゝして下野州を臨眺し
春霞秋霧四時の美観愛しつ屋し其土松木ふ宜
しく勝地とつふ屋し
又松倉山あり乎る山の西南ゝして眺望最よろしく
其景勝乎る山く相低昂も山ニ大悲閣を置り東
西両別當とて草庵あり西別當ふ近時信の黄原な

ゝ乎の住あり此の信相馬家の臣ゝ新ゝ也ありて道
世ゝ甚平生詩を脱落ゝ唯山水ふ遊ゝて詩を吐
ゝ歌を咏ゝて思を遣る而已又素禅の嗚人ゝ乎ゝ
て能く武を談ゝ岳を論も所謂豪氣未除もの
ゝ人甚才学を愛ゝ大悦ゝ住職ゝ乎ゝ人ゝ乎ゝ
ゝも敢て省ん世ゝ麻衣革鞋食を村間ふ乞ふ
て道を徳孫せゝ乎ゝ弥ふ病て野州高根澤の郷ふ逝
せりゝゝ云
土俗乞食をホイトゝ或書ふ江戸ゝて曜齋をもつち坊

ゝゝハチトハホイトゝゝめゝハゝホゝ通ゝチトトゝ
通ゝゝゝ是ゝゝの説皆國学者の論ふゝて毎ゝゝ
ゝなり学るゝゝ乞児を乞食なり今聘ゝてこゞきゝ
ゝゝコミキホイト皆佛家の言ゝて乞食陪堂なり
陪堂トハ飯米ゝゝゝゝる僧をゝゝなり佛門の教三
衣一鉢樹下石上一ゝゝ不住ゝて伏宅を厭離ゝ悭貪
之三毒也茲云癡の三毒と消滅せり最も殊勝なる修行ゝて
悭者嗔異也容易ゝゝゝる事なり又乞食をゝゝゝゝゝ
豈可謂ニ
ゝゝのゝて五躰不具なるを云ゝ此業を勤るゝゝ
毒或カタ井者片居之轉語矣非人倫者與世人必可
常居之謂耳

無名抄

ゝゝ乞食ゝるなり僧家の乞食ハ修行ゝてゝゝ
異なり
行方郡小板来村ゝゝ今潮来ゝゝゝ國学者云潮
来ハ朝来なり朝来の反切イタコなりゝゝ朝来ハ和名
抄小板来と見る今本作板ハ風土記ゝゝ板来と云板
来の古名也明ゝなる証を後世の反切を論ゝる蛇足
なるものなり
國郡古今の沿革轉遷定ゝゝて異詳なるゝ
得て知る屋ゝゝ乞真壁郡の郷名小伴部あり伴

部を友部として西那珂郡ふありと云又多珂郡
ふと友部あり又陸奥國ふ行方郡ありみ那珂
郡よ芳賀の郷名見西芳賀ハ下野國の郡名なり
又多珂郡よ高野郷あり高野ハ中世今の白河郡
と高野郡とをいひしるありとのえるまや今
白河郡ふ高野村あり又茨城郡ふ白河の郷名
又助川郷ハ多珂郡よあり然るふ久慈郡ふ属せり
今彼此の地名點檢し古今遷移の来歴を考るふ
各皆因て来れる多あり今余ハ臆載を出ふ存して

以て識者の考定を請
真壁郡珂多珂三郡伴部の称あるを按ふ敏部と武
日よりの此比大伴連の遠祖なるべし書記ふも出又
般磨六雁の功と美しとして膳大伴部と賜とも
いとり此上彼此大伴氏の東國を領し来れること明な
り今伴部と云ふ大伴氏の部属此等の地ふ
食邑せしなる歟屬し
行方郡ハ廣嶋の社領なるべし又陸奥ふも行方郡あり按
ふ廣島大神の苗裔三十餘社陸奥ふ在るふ延暦

古来宋玉白日撞性庵森
北茶遠雲仙初蔓固繞
晩煙霧探面幸如碧清峯
脆極危崖奏玉風颯々吐秋
蹟生遠瓶直八幅河水鳴峰
蒼秀之横為丙源殊異之流
埠生翁家白石之生毫之山
名士仙士一接応之神軒轅
山靈之白源秘宗為探小詩
沿商深之奏土人古龍脈晩
低玉八才一石

洗心翁

霞屋雄著

年中太神の封物を割きて彼の諸社に奉る事是なり
廉宮太神の御在所は行方郡に摂屬せる地なりて上古
は廣嶋の社領なれ共一彼の社領を陸奥の廣嶋宮へ
割分てる由にて行方と称せしなり又陸奥の廣嶋宮を
いはゆる北と東國廣嶋の御苗裔なれは其風土と行方に
似たる地を御在宮なりなり　行方を號称し来れるなり
那珂郡に芳賀の郷あり按ふに茨郡大子村に芳賀河
内守の古城あり芳賀は下野芳賀なりて昔時宇都野宮
氏武名盛んなりて東國を壓せり其比常陸をも領

せりしに見る今此の郷中益子氏飯村氏芳賀氏なりしに皆
其先宇都野宮氏の屬業なりて何れも下野の地名を姓と
せり宇都野宮氏廢せしに及て所領を失ひ遂に此の地に蟠
せり新しく見えたり余が家も宇都野宮固族なりて後島
田院御宇筑前國麻生郷に黒崎の地を賜りて帆
柱山に在城せりしに彼の後宇多院御宇建治弘安
年中異賊防禦の役に従ふ戎功ありて又本國野州芳賀
那祖母井を領せり因て祖母井を氏として又黒崎の
地名を名字に称し後大なる家来なりし芳賀氏に

なり多珂郡宮田村に於室大雄院と云曹洞宗の
大刹あり此地景色幽勝にして枝樹蔽天奇古不可
言相伯小野崎の氏開基なりと小野崎氏と宇都
野宮氏の族黨なりと云院名監多一毋考を逸
中世宇都野宮氏盛大にして常陸國東編の地は
ことに其族黨繁衍せしと見えたり今芳賀の郷石
塔変小散在せるもなり
多珂郡の中小高野郷あり陸奥の白河郡まで
高野郷あり按ずるに昔時白河郡と高野郡と

もひしにて白河氏北郡と略ぼ郡法私小高野界
と廣狹しまちまちなり其後石城氏盛大にして東は多
珂郡石野坂を界とし西北久慈郡北郡とも
并せり其法私小地を割きて石ばけしまちまち
佐竹氏勢ひ漸く盛大にして東は多珂郡北は高野
郡の界八溝山より南久慈郡を不殘領せり此時
及んで地を割きしまちまち三家ありて奥にて地を蚕
食せり故小郡界さまちまち沿革せり
多珂郡 多珂は高也此土山峯海小岳峯一にして市河

の表に接連せる地にして
久慈郡に多珂郡の助川と出でゝ又中世石城氏の石
那坂より北久慈郡まで領せし故久慈郡に助川と唐
せしなる所にて即多珂郡に高野郷と出でゝ一般
の称ゆや久慈郡と助川郷とは高鋒高坂の諸山隔
絶して其地方區別せる事なれど畢竟古今遷移地方沿革
せる事と會せる所にて
今保内郷中益子氏高橋河内菱池氏最も多く齋
藤氏又多く藤田氏相次り益子氏は野州益子に在城し

武名あり地名字都野宮黒なり前に述べし如く此郷
に移り来れる所なり菱池氏は九州菱池没落し其族
黒諸国に散在せる所なり菱池氏の九州に盛大な
る所は諸書に見る所にして齋藤氏は藤原氏と齋宮
に属従せし藤原氏にして後諸国に散在せり又齋藤
別當實盛平氏に因て一方の巨族なり故に齋藤実盛の
始祖は藤原氏にして後に平氏に属し又源氏にも属
せり実盛少壮にして軍旅に勝れる汚名を蒙りしまで
源氏に霸に直せるまで老後に及び流石武弁の名

と恥じ一族家臣の討死をやふ其名今ふ人口ふ膾炙
せり今保内郷富為氏ハ熊野宮を尸祝せり平氏の
黨なれハ祖先より祭り来るなれ屋一蔭田氏ハ下
野國烏山城より西北二里許して為田村より蔭田某
なるもの那須家の族黨なるより又隣里ふ高瀬村
住り是も那須家の支流なして今久野流村ふ高瀬
氏あり余ら母黨なり那須家ハ諏訪宮又ハ幡宮を尊
崇せり乃チ久野流村ふ諏訪宮を祭れふこの四ツなれ
ともなり那須家ハ昔時那須武者所として尤盛大なれ

ともなり宗隆ハ扇の的ふ名を得て頼朝の寵臣なりし
なり一宇都野宮朝綱より出るもの是時頼朝
の命ふよりて朝綱那須家の後見なりしなして那須
家ともに宇都野宮家の紋を用ひ是よりして宇
都野宮那須両家合一して因族の因を深くなりしなり
今保内の地ハ下野國ふ相接なれ故なして宇都野宮兵
ふ那須家の族黨移り来住ハ此四一なり今諏
訪宮多きもハ其因て来る事あるなり
袋田村の瀑布其高さ四十有餘丈なして本國中最第

一の勝景なり月居山下に在出一名月折とも書り
芳野野因大膳なるもの居城なりしなり又温泉
わり東國中の名湯なり京師香川氏の一本堂系譜
にも見えて其名高し近時人知るもの
詫なり詫春院と禅寺あり摩頂松と名機あ
りしを今は枯り此松偃蓋蔭所謂る頂を摩し
西山黄門源光圀公名はけうとの時まで一松樹
植て其勝跡と次り
常陸記行　乾終